

和歌山信愛短期大学 アセスメントポリシー

自己点検・評価委員会
 制定 2021 年 7 月 12 日
 改正 2024 年 6 月 8 日
 (2025 年 4 月 1 日施行)

1. 目的

本ポリシーは、学生がより確実にディプロマポリシーを達成できるようカリキュラムをマネジメントするために、①和歌山信愛短期大学（以下「本学」という。）で定める3つのポリシーが適切であるかどうか、また、②本学の教育課程が3つのポリシーに基づき適切に機能しているかを、3つのレベル（機関レベル・教育課程レベル・授業レベル）で、多面的、総合的に、点検・評価するための具体的実施方法を定めることを目的とする。

2. アセスメント対象、時期及びその指標

アセスメントは、次の基本構成で行うものとし、必要に応じて各指標を相互に関連させて実施する。また、機関レベルの評価は、教育課程レベル、授業レベルの各指標を元に、総合的に点検・評価するものとする。

評価対象／時期		入学前・入学時 (アドミッション・ポリシー)	在学中 (カリキュラム・ポリシー)	卒業時・卒業後 (ディプロマ・ポリシー)
指標	教育課程レベル	・調査書 ・推薦書 ・入試選抜 ・入試選抜と入学後の GPA/単位修得状況/留年・中退状況との関係 ・学修ポートフォリオ(入学時アンケート)	・シラバスの第三者チェック(DPと各科目の内容/順序/レベルの整合性) ・成績評価(GPA/GPT) ・修得単位数 ・成績分布 ・留年率、休学率、退学率 ・授業評価アンケート ・学修ポートフォリオ(DP 達成度調査) ・栄養士実力認定試験 ・学生生活調査	・成績評価(GPA/GPT) ・単位修得状況 ・卒業率 ・就職率 ・進学率 ・学位授与数 ・就職先 ・資格・免許取得状況 ・公務員採用試験合格者数 ・学修ポートフォリオ ・学生生活調査(卒業時アンケート)
			・進路先調査	
			・卒業生調査	
	授業レベル	・入学前課題	・シラバスの第三者チェック(DPと到達目標[ルーブリック]/授業手法/評価方法の整合性) ・成績評価 ・授業評価アンケート ・学修ポートフォリオ(科目到達目標達成度調査)	

アセスメントの実施方法

アセスメント・チェックリスト

名 称	実施 時期	実施 頻度	対象	評価項目 (対応目標含む)	評価 手法	評価 者	責任者	結果の活用方法
選抜機能評価	9月	年1回	全学年	各種入学試験とその後の GPA/単位 修得状況/留年・ 中退状況との関係	教務シス テムから 取得	入試 委員	入試 部長	入試種別ごとに、同評価項目でも比率が大きく異なる場合は、責任者が当該入試種別の在り方の見直し案を作成し、自己点検・評価委員会へ報告する。
入学前課題	3月	年1回	入学 予定者	課題達成状況と関連科目の成績(入学前レッスンの状況とピアノ I の成績など)	教務シス テムから 取得	教務 委員	教務 部長	課題の達成状況と、学生の個々の能力を伸長する試みの成果を比較し、成果が得られていない場合は、責任者が対策案を作成、自己点検・評価委員会へ報告する。
学修ポートフォリオ	4月	半期 毎	新入生	- DP から抽出された、育成を目指す学習成果の内いずれの力が身についたと感じるか - 教科目の到達目標達成度 - 課程外学修の時間	Assessment entor へ の入力	学生	教務 部長	【学生レベル】学生は成績評価の結果と、学習成果の自己評価結果を合わせて参照し、目標と振り返りの記載を行う。
	9月		全学年					【授業レベル】科目担当教員は、学生の自己評価結果、授業アンケート結果、当該科目の自身の成績評価結果を参照し、教員コメントに反映させる。
	2月		2年生					【カリキュラムレベル】学生の自己評価、授業アンケート、成績評価結果の平均値の推移を参照し、期待した成果が上がっていない場合や、他の力に比べて著しく低い力がある場合には責任者が対策案を作成、自己点検・評価委員会へ報告する。
	3月		新2年					
シラバスの第三者チェック	3月	年1回	当該年度の全シラバス	【カリキュラムレベル】DPと各科目の内容/順序/レベルの整合性 【授業レベル】到達目標/授業手法/評価方法の整合性	評価者が対象シラバス情報を読むことで点検	教務委員	教務部長	不適切な項目のある場合は責任者が、各科目担当者に修正依頼を行う。(修正結果の適切性も確認する)
学生生活調査	3月	年1回	全学年	カリキュラム・学生支援、学修成果、施設に対する満足度、学生支援や施設面の課題がないかなど。	アンケート調査	学生	教務部長	各指標を学科別に年度推移データとして比較を行い、継続的に向上が図れるよう実施責任者が対策案を検討し、自己点検・評価委員会へ報告を行う。
			当該年度卒業生			当該年度卒業生	教務部長	

授業評価アンケート	7月1月	半期毎	全学年	育成を目指す力に合った授業方法が採用されているか(もしくは到達目標の内いずれの力が身についたと感じるか)、授業で興味が喚起されたか、など。	アンケート調査	学生	教務部長	集計結果は全体平均と合わせて、担当教員にフィードバックを行い、全ての教員が教員コメントの作成を行う。 平均より著しく低い評価項目のある科目は、科目担当者に教務部長から改善を促す。
成績評価	7月1月	半期毎	当該学期に終了する全科目	シラバスに記載された評価項目	シラバスに記載された評価手法	科目担当教員	教務部長	【学生レベル】学生は、成績評価の結果と学習成果の自己評価結果を合わせて参照し、目標と振り返りの記載を行う。 【授業レベル】科目担当教員は、学生の自己評価結果、授業アンケート結果、当該科目の自身の成績評価結果を参照し、教員コメントに反映させる。 【カリキュラムレベル】学生の自己評価、授業アンケート、成績評価結果の平均値の推移を合わせて参照し、期待した成果が上がっていない場合や、他の力に比べて著しく低い力がある場合には責任者が対策案を作成し、自己点検・評価委員会へ報告する。
学修成果	9月3月	半期毎	全学年	・成績評価(GPA/GPT) ・修得単位数 ・成績分布 ・留年率・休学率・退学率	教務システムから取得	教務委員	教務部長	経年比較により、評価項目に著しい低下が認められる場合は、教務部長が対策案を検討し、自己点検・評価委員会へ報告を行う。
	3月	年1回	卒業生	・成績評価(GPA/GPT) ・単位修得状況 ・卒業率 ・学位授与数 ・資格・免許取得状況	教務システムから取得	教務委員	教務部長	経年比較により、評価項目に著しい低下が認められる場合は、教務部長が対策案を検討し、自己点検・評価委員会へ報告を行う。
				・就職率(進学率) ・就職先 ・県内企業就職率 ・公務員採用試験合格者数	教務システムから取得	進路・就職委員会	キャリアセンター長	経年比較により、評価項目に著しい低下が認められる場合は、責任者が対策案を検討し、自己点検・評価委員会へ報告する。

進路先調査	11月	3年に1回	当該期間に採用実績が1名以上ある企業	・採用学生に対するDPに基づく評価 ・DPで示した資質能力の適切性	アンケート調査	調査対象企業	キャリアセンター長	進路先評価と、学内評価に乖離がある場合は、教務部長が対策案を検討し、自己点検・評価委員会へ報告を行う。 DPで示した資質能力と必要とされる力に乖離がある場合は、教務部長が対策案を検討し、自己点検・評価委員会へ報告する。
栄養士実力認定試験	12月	年1回	食物2年	栄養士に必要な知識・理解が身についているか	筆記試験	外部テスト	学科長	成績分布を経年比較し、著しい低下が見られる場合は、責任者が対策案を検討し、自己点検・評価委員会へ報告する。
卒業後調査	8月	年1回	卒後3年経過する全卒業生	DP(就職してから必要とされたDPに含まれる力、含まれない力)	郵送によるアンケート調査	調査対象の卒業生	教務部長	DPで示した資質能力の内、就職してからあまり必要とされていない力や、DPに含まれていないが必要となる力がある場合には、責任者が対策案を検討し、自己点検・評価委員会へ報告する。
3つのポリシーの整合性点検	6月	年1回	全学年	卒業率/就職率/進学率/留年率/中退率	教務システムから取得	FD・教学IR委員会	教務部長	各指標を学年学科別の半期ごとの推移データとして比較を行い、継続的に向上が図れるよう責任者が対策案を検討し、自己点検・評価委員会へ報告を行う。
地元産業界インタビュー調査	6月	年1回	商工会議所会員企業など2社以上	3つのポリシーに基づき設計されたカリキュラム/学修成果/DPで示した資質能力/3つのポリシーの整合性	インタビュー調査	調査対象企業	キャリアセンター長	インタビューにより取得した声を取りまとめ、必要に応じて実施責任者が対策案を検討し、自己点検・評価委員会へ報告を行う。